



くまもと建築士会 女性部会 ～かわら版～

第11号 平成29年7月 発行

◆住まいづくりの無料相談会◆

毎月第4土曜日の13時～16時、鶴屋デパート本館5階インテリアカウンターにて無料相談会を開催しております。

みなさんも相談員として登録してみませんか！

＜対応してくださった相談員の皆さん＞

4月 濱田剛子さん、下野明希子さん

5月 吉田智佳子さん、萩尾洋美さん

6月 山下恵子さん、井芹里恵さん

ありがとうございました。



◆平成29年度（公社）熊本県建築士会女性部会総会

去る平成29年4月29日（土）13:00より建築士会館にて熊本県建築士会女性部会総会が行われました。総会後は、美味しいスイーツやフルーツを頂きながら、熊本地震から一年経ったそれぞれの報告や、今後の地震関連の活動に関する意見交換が行われました。その中で、部会内の連絡用により安心なSNSツールとして「cybozu」を活用することを見据えた、試験運用を行うことになりました。

◆ドローン体験セミナー◆

去る平成29年5月27日（土）小島地域コミュニティセンター多目的ホールにてドローン体験セミナーが行われました。エアリサーチ九州(株)様を講師に迎え、まずは関係する法令等や、空撮写真を見ながらの有効な活用法等の説明を受けました。その後河川敷に場所を移し、抜けるような快晴の下参加者全員が実際にドローン操作を体験しました。

ドローンから送られてタブレットに映し出された景色はまさに「鳥の目」。大好評のうちに終わりました。

第2回目を少し涼しくなってから開催予定です。お楽しみに！！



【お知らせ】復興団地でのすまいの相談会を計画しています

私たちは毎月鶴屋において相談会を実施していますが、熊本地震から1年、復興団地に私たちが赴いての住まいづくり相談会を計画しています。その周知の為のポスターを作成しました。デザインは熊本支部の橋詰美香さん、構成は熊本支部の本幸世さんが担当して素敵なものに仕上がりました。届く支援の地域格差が広がらないためにも、活動していきたいと思っています。

わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに、全員が参加できる部会活動を目指しています。女性部会の最新情報はfacebookで随時更新中！

【熊本建築士会女性部会】で検索♪

女性部会FBのQRコードはこちら👉



熊本地震を経験して ～地震直後～

平成28年4月14日に前震、16日には本震と2度の大きな地震に見舞われた熊本地震から1年が経ちました。あの時、私たち女性建築士がどのように感じ行動したのか、記録の第2弾です。

◆ 地震直後のこと

4/14(前震)

子供を寝かしつける直前に大きな地震。

我が家では生活用水に井戸水を電動ポンプで使用しており、半年前に台風が直撃して停電になったとき断水状態になり大変だった経験があったのですぐ浴槽とポリタンクに水を溜めた。

玄関を出ると瓦が落ち破片が散乱しており、ヘルメットとヘッドライトが役に立つ。

学校のグラウンドに避難し、そのまま車中泊。

4/15

子供に元気がなく、食欲もないようなのでチョコレートやビスケットを食べさせる。家に戻って見たものの大きな余震が多く、ほぼ車の中で過ごす。

ホームベーカリーでパンを焼くのに失敗したり、気持ちが落ち着かず注意力が散漫気味で、ずっと緊張しているせいか、唇がガサガサになり何度もリップクリームを塗り直したことを覚えている。

子供が怯えきっている様子だったので今夜も車中泊にしようかと迷ったが、車ではゆっくり眠れなかったこともあり、すぐに避難できるよう玄関に避難の準備をしてから自宅にて就寝。

4/16(本震)

夜中に大きくて長い地震、外灯が消えたので停電したことがわかった。

避難準備はしていたものの、強い揺れが10分以上おさまらず立ち上がることもできなかつた。家が今にも倒壊してしまいそうで、車中泊にしなかつたことをとても後悔した。

友人たちとのLINEで水道が断水したことを知る。

どうにか家を出て車中泊し、夜が明けてから自宅へ戻り、長期の避難準備とウォーターサーバーを持って実家へと避難した。

移動するにも道路は陥没、マンホールや橋があちこちで突出しており、ブロック塀が倒れていて危険だったが、国道などの大通りは信号がついていたので安心感があった。(続く)

白浜 美奈子

女性副部長 熊本支部
川尻六工匠 古川設計室



◆熊本地震・私の場合

2016年4月14日地震発生。翌日応急危険度判定の人員募集の話を聞く。16日の土曜日分まではもう足りていると言われ、じゃ息子2人の学校のこともあるから、と17日に応募した。

15日は突然休校、自宅待機となり、息子たちには自宅の草むしりを3時間させた。そして16日未明、2度目の地震。疲れ果てた息子たちは幸いにも気付くことなく結局朝まで爆睡していた。

17日朝、すまいの八代から北上する。宇城市を通過するくらいから徐々に景色が変わって一体何が起きたのだろうと混乱してくる。

棟瓦が落ちている家の数が増えてくる。道路は割れ橋梁は隆起や陥没で迂回や1台ずつ渡ることを指示された。ようやく益城に着き言葉を失う。引きちぎられたような家屋の前で「入りませんけん、ここにおつてよかですか」と静かに座っているおばあちゃんに、掛ける言葉が見付からない。余震が続く。「気を付けてくださいね」と声を掛けるのが精いっぱいだった。

判定の途中何度も長男から電話が。「お母さん、生きてる？」TVで惨状を見て不安になつたらしい。

結局、我が家周辺では水道も電気も止まることは無かつたが、困つたのは牛乳の確保。1日2ℓ、成分無調整の「らくのう牛乳」をあちこちのスーパーで探し回つた。宅配牛乳だけは途切れず、量は足りなかつたが大変助かつた。

FB上の多くのデマや、連絡用の保護者グループラインに、良かれと思って流される眉唾ものの情報には辟易した。東北の震災では、ゆずりあいなどの美しい話しか聞こえてこなかつた。が私の周辺には美しい話は皆無だった。ほとんど被害はなかつたのに、なぜ、と思う話ばかりが入ってきて、やるせなくなつた。(終)

下野 明希子

八代支部所属
(有)COZY COZY設計室



※女性部会では熊本地震の体験やその後の活動を書いて下さる方を募集しています。熊本県建築士会事務局(までご連絡ください。TEL 096-383-3200
メール LEB03540@nifty.com